



「ヒトメタニ
ニューモウイルス

ス」という名前を聞きます。



15年前に発見
されたウイルス

ですが、昔から存在していたと考えられています。実は、小児科での気管支炎、肺炎の原因の5〜10割を占めるほど多い病気です。現在は肺炎が疑われる場合に、このウイルスの鼻水からの検査が保険適用となりました。外来で診断が可能です。

症状は、高熱、せき、鼻汁が9割以上に見られます。ほかに、呼吸困難、おう吐、下痢、頭痛などがあり、熱の持続は平均5日とインフルエンザのように長いのが特徴。RS

ウイルス感染と症状がよく似ています。通常、1週間程度で軽快します。時には、喘息(ぜんそく)様

ヒトメタニューモウイルス・・・3～6月に流行

気管支炎、細気管支炎、肺炎などと診断されることが多いようです。

母親からの免疫が消失する生後6か月くらいから感染が始まり、2歳までに5割、10歳までにはほぼ全員が感染します。1〜2歳が最も多く、RSウイルスでは1歳未満が多いのと対照的です。

日本での流行時期は3〜6月です。潜伏期は4〜6日くらいで、ウイルスの排せつは1〜2週間持続します。飛沫感染と接触感染でうつるため、乳幼児の多い

保育園では感染が広がりやすいことがあります。手洗いの励行が重要です。治療は対症療法のみですが、呼吸困難のひどい

Q&A



子育て相談室

ときには入院が必要となります。〈水戸市中丸町の平野こどもクリニック

院長・平野岳毅〉